

令和 5 年 6 月 27 日現在

機関番号：14401
研究種目：国際共同研究加速基金（国際共同研究強化）
研究期間：2017～2022
課題番号：16KK0059
研究課題名（和文）高齢者の健康長寿とポジティブ心理要因・社会関係資本の影響についての検討（国際共同研究強化）
研究課題名（英文）Positive Psychological Factor, Social Capital and its association with Healthy Aging(Fostering Joint International Research)
研究代表者
白井 ころこ (Shirai, Kokoro)
大阪大学・大学院医学系研究科・特任准教授（常勤）
研究者番号：80530211
交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 11,900,000円
渡航期間： 5ヶ月

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、ポジティブ心理要因と社会関係資本に着目して、健康の社会的決定要因（Social Determinants of Health）と健康長寿の関係について明らかにすることである。そのため本研究では、国内と海外の大規模コホートをを用いた国際共同研究と、データ収集と介入を伴う小規模の観察研究と介入研究を実施した。結果として、幼少期・中高年期の社会経済的要因が高齢期の疾病・死亡リスク上昇に関連すること、またその構造・機序の一部として、社会関係資本を含む、人的・物理的な社会関係環境が健康に影響すること、更に生きがいや笑い等のポジティブ心理要因が、健康に保護的な関連を示すことについて報告した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の意義は、健康の社会的決定要因の視点から、幼少期・中高年期の相対的・絶対剥奪など社会経済的要因が高齢期の健康長寿に関係することを示し、さらに社会関係、社会関係資本、ポジティブな心理要因が、保護的な健康資源として働く可能性について、大規模コホートによる観察研究と介入研究の両面から検討し、エビデンスを蓄積したことである。更に本課題は国際共同研究として実施しており、健康の社会的決定要因への視点、高齢社会における健康長寿実現のための課題など、国際的な共通課題と日本の特徴的な要因の両面から、健康の社会的決定要因の構造・機序についても考察を進めた。

研究成果の概要（英文）：Purpose of this study is to examine the association between the social determinants of health and healthy longevity in Japan, focusing on positive psychological factors and social relations. We conducted both international collaborative research using large-scale prospective cohort studies in Japan, UK and Finland, and conducted small-scale observational and intervention studies in Japan. The results revealed that socioeconomic factors including relative and absolute deprivations, in early childhood and middle to old age are associated with increased risk of development of disease and death in old age. Furthermore, as part of this structure and mechanism, the social relational environment, which includes social relations, social capital and both human and physical factors, affects health. Moreover, we reported that positive psychological factors such as a sense of purpose in life and laughter show a protective association with health.

研究分野：公衆衛生学

キーワード：健康長寿 健康の社会的決定要因 社会関係 ポジティブ心理要因 社会経済的要因 国際共同研究

様式 F-19-2

1. 研究開始当初の背景

本研究に先行する研究課題として、社会関係資本と健康の関係について、沖縄地域において、縦断研究とクラスターランダム化比較試験による地域介入研究を行ってきた。沖縄県はかつて、健康長寿の島として知られてきたが、肥満や中高年の働き盛り世代の早世率が高く、相対的な健康状態の低下に危機感がある状況であった。本土復帰後はしばらく、沖縄県では、全国で平均寿命一位の期間が長く観察されてきた。しかし、平均寿命の伸びが鈍化した結果、他の県に平均寿命の順位で追い越され、相対的な順位が順次下がっている状況となっていた。同じ遺伝要因を持つ沖縄県民が、かつては世界でも有数の健康長寿の地域として知られ、その後には急激に健康状態が変化した背景には、社会環境の変化による影響が大きく、社会経済的背景や個人の生活を取り巻く、地域の関係性やネットワーク、ソーシャル・キャピタル等による正と負両面からの健康影響の検討が重要であると考えられた。すなわち健康の社会的決定要因による影響の大きさが考察される状況にあった(白井,2014)(Shirai K, 2020)。

本研究の計画にあたり、健康の社会的決定要因による健康の棄損や健康格差拡大の関係性の検討を行うこと、さらに健康長寿を維持・増進する要因として、個人の心理的資源や、社会的環境要因に関連する資源も、健康資源として捉えて検討が必要であると考えた。特に、今までの先行研究では、健康長寿に影響するリスク要因を検討する研究が主であり、ポジティブな健康資源を検討し、個人の要因、地域の要因として、健康に保護的な効果が期待される、要因の検討に限られる傾向にあった。一方で、「笑う門には福来る」と言われるように、ポジティブな心理状態や、ポジティブな行動、性格傾向などが、健康に対して保護的な効果を持つという生活実感は多い。ポジティブな心理要因と健康の関係性についての検討は、今後の検証がさらに必要な分野であると考えて、本研究を推進した。加えて、健康の社会的決定要因の検討を行うにあたって、健康との関係性を説明するために、アロスタティックロードなどのストレス負荷、炎症反応などを介した心理的な経路と同様に、ポジティブな心理状態が独立した要因として、社会関係と健康の関係性的一端を説明する可能性があると考えた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、社会関係資本とポジティブ心理要因に着目して、健康の社会的決定要因(Social Determinants of Health, 以下 SDH)と健康長寿の関係について明らかにすることである。そのために本研究では、(1)社会経済的背景ならびに、ソーシャルネットワークや、ソーシャル・キャピタルなど、社会関係と健康の関係性について、循環器疾患・がん疾患等の生活習慣病の発症・死亡、認知症発症や要介護認定リスクとの関係性の検討を行う。さらに、(2)その機序の一端として、いわゆる Trait と考えられる、個人が持っている①楽観的な性格傾向や性格傾向、気質、また SOC などのレジリエンス要因、また State としての、②幸福感や生活満足感、生きがい感、ポジティブ感情の表出など、個人のポジティブな心理状態(Hedonic, Eudemonic 両方含む)、さらに③笑いなどポジティブな行動が、それぞれ健康に与える影響について、検討することを目的とする。

さらに健康の社会決定要因と健康の関係性に影響を与える生活習慣や社会環境要因について、原因の原因(cause of cause)の検討を行う。上記の検討内容を、日本人ならびに複数の国の地域住民を対象に行う事で、健康の社会的決定要因による健康長寿への影響について、保護的要因・リスク要因の両方の側面から検討を進め、健康長寿に資する特異的・普遍的なエビデンスの蓄積を目指すことを本研究の目的とした。

3. 研究の方法

本研究の方法として、日本人を対象とした高齢者コホートと中高年者コホートデータを用いた分析を行った。大規模コホートデータとして主に、Japan Gerontological Evaluation Study (JAGES, 日本老年学的評価研究)、Japan Collaborative Cohort Study (JACC Study)、Japan Public Health Center Based Cohort Study (JPHC Study)を解析対象として用いた。さらに仮説検証のために、一部の対象者に対して、オキシトシン、高感度 CRP、IL-6 などのバイオマーカーを含む生体指標の測定ならびに、認知機能の測定を行った。調査と追加検査は、協力が得られた3地域において健診会場における追加調査として実施した。

また、国際比較研究として、フィンランドの Finish institution of Occupational Health, 英国の English Longitudinal Study of Ageing (ELSA), (<http://www.ifs.org.uk/ELSA>)、米国の Health and Retirement Study (HRS), (<http://hrsonline.isr.umich.edu/>)、などのデータセットを用いた検討を進めた。フィンランドのデータセットについては、現地にて共同研究者らと研究会議を開催し、データの Harmonization を行い、二国間のデータを比較分析した。さらに、比較検討のための妥当性検討研究を、小規模な日本人を対象として、実施した。本研究の仮説検証のために、大規模コホート研究プロジェクトに参加して、3年に1度の大規模調査において、関連項目の調査を行った。また、同研究に参加している自治体内、賛同が得られた2か所の自治体において、妥当性検証のための追加の研究データ収集を行い、解析を行った。

上記の観察研究による検証に加えて、ポジティブな心理要因の検討のために、大阪・岡山・福島の3地域において、クロスオーバーデザインによる介入研究を実施した。

当該研究では、地域住民を対象とした前向き追跡研究デザインによる縦断研究データと、小規模な地域における横断的な観察研究データを用いて、日本国内における分析と、国際共同研究による分析を行った。さらに、介入研究を行い当該研究課題の仮説を検証した。

4. 研究成果

本研究課題の実施期間には、国際的な感染症流行による渡航制限の時期が含まれる。本格的な流行開始時期の時期以降、COVID-19の感染拡大に伴い、海外への渡航や、現地での国際共同研究の実施、高齢者を集めて大規模な調査研究を実施することが制限される時期が継続的であった。そのため、本研究は当初の計画から、海外への渡航期間や研究実施の方法については、延期や計画修正を行いながら遂行した。本研究による主な知見は以下の通りである。

(1) 社会経済的背景 (SES) と健康

健康の社会的決定要因の視点から、Marmot M (元世界医学学会会長・元 WHO 健康の社会的決定要因検討委員会会長)から、日本の長寿の要因の一つとして、相対的な格差の小ささが指摘されたことがある。社会格差の相対的な小ささ、もしくは、存在する社会格差を健康格差に直結させない何かの要因(例えばソーシャル・キャピタル)によって、日本の健康長寿の一端が説明されるのではないかと、考えてきた。しかしながら、日本社会における社会経済格差、健康格差は現在拡大、もしくは顕在化している状況にあると考えられる。

人にとって最も格差を感じる状態、剥奪されている状態は、隣の人が持っているものを自分が手に入れられないときである。すなわち、絶対的に入手困難なものが得られなくてもストレスは上がらない。一方で、同じ境遇にあるはずの隣人や、同級生が手に入れたものを、自分が望んでも手に入れられない時、人は最もストレスを感じる。

本研究では、イツザキ Index による相対的剥奪指標と収入ランキングによる指標を用いて、相対的な剥奪状態とうつ発症の関係について検討した。結果として、相対的剥奪の度合いが10万円上がる毎に7%、相対的な収入ランキングが0.1ユニット下がる毎に15%、男性ではうつ発症のリスクが高くなる傾向が確認された。女性でも同様にそれぞれ5%と12%うつ発症のリスクとの関係性が高くなる傾向が見られた。また、実際の等価所得のレベルで層化すると、女性では最も年収の高いグループの中で、相対的なランキングが低いことが、うつ発症との関連性が最も強かった。一方で、男性では相対的なランキングの低さは、最も年収の低いグループで高かった (Gero K, Kondo K, et al, Soc Sci Med, 2017)。

社会経済的背景要因による、健康状態の違い、階層性の存在については、近年多くの研究が蓄積されつつある。本研究では、幼少期のSESの指標の一つとして、幼少期の受動喫煙が、循環器疾患死亡、特に虚血性心疾患死亡 (Teramoto M, Iso H, et al, J Atheroscler Thromb. 2022)、呼吸器疾患死亡 (Kawachi H, Teramoto M, et al, J Public Health (Oxf). 2022)に関連していることを報告した。さらに、幼少期の居住地域と中高年期以降の呼吸器疾患死亡との関連について検討した (Iwasaki A, Teramoto M, et al, Int J Public Health. 2022)。

SESによる階層性と健康、もしくは健康行動との関係は、福祉国家である北欧諸国においても同様にみられることが指摘されており、日本とフィンランドでの国際共同研究を実施した。日本とフィンランドで、大規模コホート研究データを用いて、データの Harmonization ならびに分析コード等を共有し、二国間で比較共同研究を実施した。結果として、教育歴と運動習慣、テレビの視聴時間から考えられる Sedentary (不活性・不活動) との関係性について、日本・フィンランドで共に教育歴の短い者で、Sedentary の傾向が観察された (Tsuji T, Amemiya A, Shirai K, et al, BMC Public Health. 2018)。また、教育歴と婚姻状況の交互作用による死亡との関連について、日本とフィンランドでは、一部で異なる傾向が確認された (Saito T, Oksanen T, Shirai K, et al, J Epidemiol. 2019)。これは、元々の分布の違いによるものと、関係性の修飾効果の違いが関係性していることが、考察された。更に、幼少期のACE (逆境体験) が成人期以降の健康状態に与える影響について、国際比較研究を行った。ACEの指標として、虐待や不適切な養育に加えて、両親の離婚や死別等の幼少期の体験を加えて検討を行った。離婚の分布や発生頻度は両国で異なるが、関係性についてはほぼ同様に、ACEの多さと健康状態の間には関係性がみられた (Amemiya A, Fujiwara T, Shirai K, et al, BMJ Open. 2019)。ACEと健康状態の関係性については、国際的に共通の関係性がみられたと考えられる。

(2) 社会関係・社会関係資本と健康

建造物や坂道の構造などの物理的環境と、社会的関係性に基づく社会心理環境の両方が、血糖コントロールならびに、循環器疾患関連指標と関連することを明らかにした (Fujiwara T, et al, Soc Sci Med, 2017) (Yokobayashi K et al, PLoS One, 2017) (Inoue Y, et al, PLoS One, 2016)。また、社会参加することが認知症発症のリスク低減と関連することは、知られている。根本らの報告では、組織参加による影響と、組織において役割を持つことによる、相加効果、相乗効果を検討した (Nemoto Y, Saito T, Kanamori S, et al, BMC Geriatr, 2017)。加えて、社会関係ならびに社会参加の形態として、趣味組織を含む地域組織への参加と要介護認定リスクが関連することについて明らかにし (Fuji Y, Sakaniwa R, Shirai K, Prev Med Rep. 2022)、趣味組織の中でも音楽活動への参加と認知症リスク低下の関係性について報告した (Arafa A, Eshak ES, Shirai K, Geriatr Gerontol Int, 2021)。認知症に予防的要因としては、社会参加に加えて、余暇活動における運動の効果についても報告した (Arafa A, Eshak ES, Shirai S, Public Health, 2021) 更に、物理的環境を考慮に入れた、社会参加と高血圧の関係性を明らかにした (Yazawa A, et al, Hypertens Res, 2016)。佐藤らの報告では、社会関係資本 (以下 SC) の種類として、特定化信頼と一般化信頼ならびに、その地域環境による影響の違いに着目し、農村・都会における SC と健康の関係性の違いについて、検討した (Sato Y, Aida J, et al, Soc Sci Med. 2018)。先行研究では、特定の他者への信頼は、その他の他者への排他にもつながる可能性があり、強固な社会関係が健康に対して、正の影響・負の影響の両面を持つことも議論されてきた。加えて、社会関係資本が健康に与える影響のメカニズムの一つとして、つながりのホルモンとも呼ばれる、オキシトシンの効果が議論されている。藤原らの報告では、国立成育医療研究センターと東京医科歯科大学の研究チームが中心となり、3世代の親子孫のコミュニケーションにおける、オキシトシンホルモンの役割と遺伝子多型について国際共同研究を実施した (Fujiwara T, et al, Psychoneuroendocrinology, 2019)。

社会関係資本として、広く解釈される地域におけるつながりや、人的関係性に基づく資源を健康に資する資源として活用する取り組みとして、国際保健分野において、複数の取り組みが進んでいる。地域の保健衛生ボランティアの活動は、医療保健の専門職が不足する中、システムとして定着しつつある。当山らの報告では、男女のペアで訪問を行うことで、妊産婦への教育効果と、サポートプログラムとしての資源の提供に一定の効果がみられた (Toyama N, et al, Trop Med Health, 2021)。

医療通訳の分野においては、取り残されがちな外国人医療の現場において、遠隔での翻訳サービスの提供システムや、専門家の育成トレーニングを併せて実施する取り組みなどが、徐々に広まりつつある (Saeki S, Minamitani K, et al, Healthcare (Basel), 2022)。社会疫学研究における、今回の SC 研究の枠組みとは少し離れるが、社会格差や健康格差を縮める地域資源の活用や新たな資源の創出の観点から、SC と健康に関連する研究成果の一つとして、記載する。本科研費研究の検討結果として、社会関係ならびに社会関係資本について、健康にポジティブな関連性を持つ要因に着目した報告が結果的に多くなった。今後の展開として、ネガティブな関係性や健康へのポジティブな関連性に関する条件設定等についても検討を進める必要があると考えられた。

(3) ポジティブな心理要因と健康：楽観性 (志向) と健康

Dispositional Optimism と循環器疾患をはじめとする健康アウトカムとの関係については、Giltay ら (2004, Arch Gen Psychiatry) や Kubzansky ら (2007, Archives of General Psychiatry) など 2000 年代からエビデンスの蓄積があり、概ね保護的な効果があることで、結果は一致していた。一方で、近年はハリケーンカトリーナや 9 11 の事件の際に、楽観性志向の高い人で、より健康の悪化傾向がみられることが報告され、いわゆる Mismatched Theory に対する関心も高まってきた。楽観性志向が高い人において、震災や災害時の厳しい状況が、見積もった予測の状況と異なり、

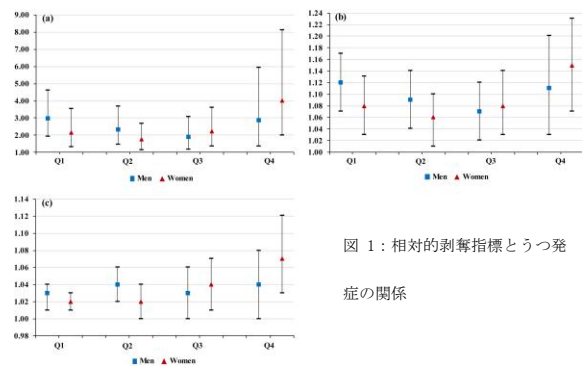


図 1: 相対的剥奪指標とうつ発症の関係

現実との乖離が大きすぎると、逆に楽観性が健康に保護的に働かないことが、報告されてきた。JAGES 研究において、本研究課題の一環として、改訂版の Life Orientation Test (LOT-R) を測定した。本指標を楽観性の指標として使用し、楽観性志向と健康の関係を検討した。結果として、日本人高齢者における楽観性志向は健康のアウトカムとの関連性は認められなかった。(Okuzono SS, Shiba K, Lee HH, Shirai K, Koga HK et al, J Happiness Stud, 2022) 一方で、被災地における報告結果では、ミスマッチ理論による結果は認められず、楽観性志向が高い者において、低い者と比べて震災後のうつ発症、PTSD 発症のリスクが低い傾向がみとめられた (Gero K, Aida J, Shirai K, Kondo K, Kawachi I. Soc Sci Med. 2021) (図 2)。さらにこの関係性は、家屋損壊被害が大きい集団においてより顕著にみられた。すなわち、日本人高齢者においては、楽観性志向についての検討結果では、平常時の地域在住高齢者に対する縦断研究による検討では、関連性が認められなかったが、被災地における高齢者では、楽観性志向が高いことがうつや PTSD などの健康被害のリスク低減と関連していた。この結果は、今迄に報告されてきた、米国や英国の集団における検討の結果よりも、日本人高齢者における楽観性の傾向が低い分布であることも要因の一つとして考えられる。同指標を用いた研究として、共同研究者の KimE らが HRS のデータを用いて検討しており、保護的効果を報告している。今後、更に精緻な国内における研究、また国際共同や比較研究が必要になると考えられた。

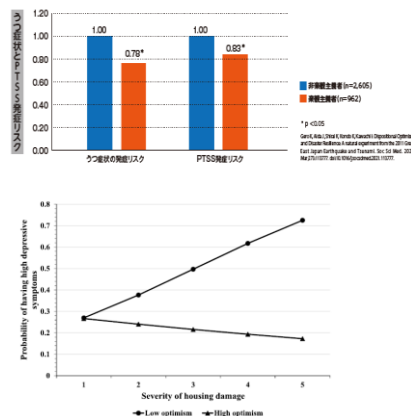


図 2：楽観性志向と震災後の精神的健康状態

(4) ポジティブな心理要因と健康：生きがい(感)と健康

「生きがい」は英語圏でいう sense of purpose や sense of life worth living 等の概念と意味が近い概念であると言われる。一方で日本独自の概念として、「Ikigai」という概念を区別して報告する研究もある。本研究では、質問指標による評価を用いた JACC 研究、基本チェックリストによる「生きがい」の有無の項目を用いた JAGES 研究、さらに ikigai-9 を用いて独自に小規模調査を行った、Y市の地域住民を対象とした調査コホートを主な解析対象として、分析を行った。

結果として、生きがいと循環器死亡、肺炎死亡、高血圧、糖尿病既往等、複数の健康アウトカムとの関係性が認められた。JACC 研究を用いた分析では、生きがいが少ない群に比べて、多い群では他の関連要因を調整した上でも、循環器疾患の死亡リスクが低い傾向が認められた (Miyazaki J, Shirai K, Kimura T, et al, BMJ Open, 2022) (図 3)。さらに、職業別に見た層化解析の結果では、無職の中老年世代においても、生きがいが多いことが疾病のリスク低下と関連している傾向がみられた。一方で交互作用は認められなかった。同様に JACC 研究を用いた結果として、生きがい感、他者から頼られている意識、生活を楽しんでいる意識などのポジティブな心理要因と、肺炎死亡のリスクについての検討を行った。中高年期のポジティブな心理状態と、高齢期における肺炎死亡の関係を中央値 19.5 年の追跡の結果から検討した所、他の関連要因を調整した上でも、肺炎死亡のリスク低減と生きがい感、他者から頼りにされている意識は、関連性がみられた。結果は競合リスクを考慮した解析を用いても、同様に認められた (Sumiyama A, Shirai K, Imano H, Eguchi E, et al, J Psychosom Res, 2022)。加えて、65 歳以上の高齢者を対象とした大規模コホートである JAGES 研究の一環として、アウトカムワイドの手法を用いて、生きがい感と複数の関連要因の検討を行った。結果として、身体的な Well-being としての IADL、認知機能、社会的 Well-being としての組織参加等との関連性がみられた (Okuzono SS, Shiba K, Kim ES, Shirai K, Kondo N, et al, Lancet Reg Health West Pac, 2022)。生きがいは改変可能な要因であり、高齢者の介護予防施策や、地域でのプログラムレベルでも、生きがいの向上や生きがいを持った高齢期の期間の延長は、たびたび語られてきた、高齢期の目標の一つである。今後、日本における生きがい研究の知見を積み重ね、世界に発信することの意義も本研究成果から確認された。

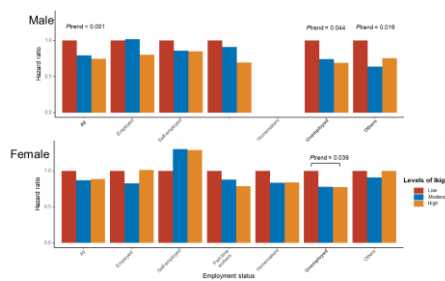


図 3：生きがいと循環器疾患死亡

(5) ポジティブな心理要因と健康：笑い

「笑う門には福来る」と言われるが、本研究では笑いが健康に影響を与える関係性を検討するために、観察研究と、介入研究を実施した。笑いは、ポジティブな心理要因の中でも、感情を介さず笑いを想起させるなど、行動として介入が可能であると考えられている。そのため介入研究では、バイオフィードバックを前提とした、行動要因の一つとして、笑いが健康に及ぼす影響について、その関係性を検討した。介入には、「笑いヨガ」を用いて、クロスオーバーデザインによるランダム化比較試験を用いて、笑いの健康効果に関する介入研究を実施した。大阪、岡山、福島の 3 地域において、対象者を性別・年齢・BMI・糖尿病・高血圧既往等の情報を用いて割り付けた後、前期介入群と後期介入群に対して、それぞれ、12 週間ずつの笑いの介入プログラムを実施した。結果として、メタボリックシンドロームの有病者において、笑いのプログラム参加前後で、BMI ならびに心理的指標の変化が確認された (Funabono N, Eguchi E, et al, BMC Geriatr, 2022)。更に、観察研究として、日本人高齢者における笑いの頻度と、歯の健康の関係 (Hirosaki M, Ohita T, Shirai K, et al, Front Endocrinol, 2023)、笑いの頻度と死亡 (Tamada Y, Takeuchi K, et al, J Epidemiol, 2020)、認知症発生 (Wang Y, Shirai K, Ohira T, et al, Geriatr Gerontol Int. 2022)、要介護認定 (Tamada Y, Takeuchi K, et al, J Epidemiol. 2020)、(Tamada Y, Yamaguchi C, Prev Med. 2022) (図 4) との関係性を検討した。結果として、笑いの頻度が多いほど、死亡や認知機能、身体機能障害のリスクが減少する傾向がみられた。さらに、笑いの種類や場面についても検討を行い、一人で笑っているより、友人や家族など、複数の人数で笑う機会が多い者で健康リスクが低い傾向が確認された。加えて、笑いを目的変数として、社会関係 (Nagai M, Ohira T, Shirai K, et al, BMJ Open, 2021) やその他の生活様式など、笑う機会の多寡に関連する要因の検討も行った (Imai Y, Nagai M, et al, BMJ Open, 2018)。

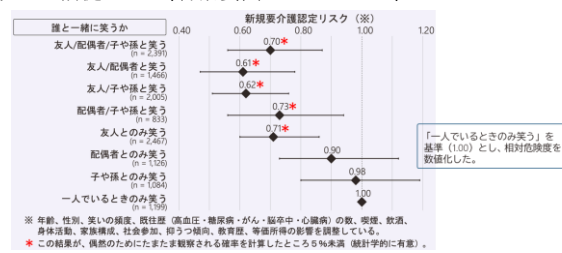


図 4：誰と笑うかの場面と新規要介護認定

上記の通り、本研究では健康の社会的決定要因の観点から、社会経済的要因、社会関係、社会関係資本、ポジティブな心理要因と健康の関係について、それぞれ検討を進めてきた。また、海外と共通する傾向と、日本に特異的な傾向につ

いても、国際共同研究を進めた。エビデンスが不足する課題について、科学的なエビデンスの蓄積を行うという意味で、一定の成果をあげたと考えられる。一方で今後の課題として、相互の関係を踏まえた包括的な関係性のメカニズムの検討や、より社会実装につなげられる研究の進捗と、エビデンスの蓄積が求められると考えられた。今後、より一層精緻な科学的エビデンスの検討と、社会還元につながる研究を進めたいと考える。

引用文献（研究成果記載を除く）

1. 白井こころ (2014)「沖縄におけるソーシャル・キャピタルと健康」(第9章) 藤田陽子・渡久地健・かりまたしげひさ編『島嶼地域の新たな展望』九州大学出版会、九州 p. 1-382
2. Kubzansky LD, Thurston RC. Emotional vitality and incident coronary heart disease: benefits of healthy psychological functioning. *Arch Gen Psychiatry*. 2007 Dec;64(12):1393-401.
3. Giltay EJ, Geleijnse JM, Zitman FG, Hoekstra T, Schouten EG. Dispositional optimism and all-cause and cardiovascular mortality in a prospective cohort of elderly dutch men and women. *Arch Gen Psychiatry*. 2004 Nov;61(11):1126-35.
4. Shirai K, Iso H, Life Course Approach and Non-communicable Disease in Japan: Japanese Cohort Studies based on life stages, *Journal of Clinical and Experimental Medicine*. 2018;264(4):283-287.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計70件（うち査読付論文 69件 / うち国際共著 55件 / うちオープンアクセス 68件）

1. 著者名 Wang Y, Shirai K, Ohira T, Hirosaki M, Kondo N, Takeuchi K, Yamaguchi C, Tamada Y, Kondo K, Cadar D, Iso H	4. 巻 22(5)
2. 論文標題 Occasions for laughter and dementia risk: Findings from a six-year cohort study	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Geriatr Gerontol Int	6. 最初と最後の頁 392-398
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ggi.14371	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する
1. 著者名 Fuji Y, Sakaniwa R, Shirai K, Saito T, Ukawa S, Iso H, Kondo K	4. 巻 26
2. 論文標題 The number of leisure-time activities and risk of functional disability among Japanese older population: the JAGES cohort	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 the JAGES cohort. Prev Med Rep	6. 最初と最後の頁 101741
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.pmedr.2022.101741	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する
1. 著者名 Arafa A, Eshak ES, Shirai K, Iso H, Kondo K	4. 巻 21(6)
2. 論文標題 Engaging in musical activities and the risk of dementia in older adults: A longitudinal study from the Japan gerontological evaluation study	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Geriatr Gerontol	6. 最初と最後の頁 451-457
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ggi.14152	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する
1. 著者名 Okuzono SS, Shiba K, Kim ES, Shirai K, Kondo N, Fujiwara T, Kondo K, Lomas T, Trudel-Fitzgerald C, Kawachi I, VanderWeele TJ	4. 巻 21
2. 論文標題 Ikigai and subsequent health and wellbeing among Japanese older adults: Longitudinal outcome-wide analysis	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Lancet Reg Health West Pac	6. 最初と最後の頁 100391
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.lanwpc.2022.100391	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Tamada Y, Yamaguchi C, Saito M, Ohira T, Shirai K, Kondo K, Takeuchi K	4. 巻 155
2. 論文標題 Does laughing with others lower the risk of functional disability among older Japanese adults? The JAGES prospective cohort study	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Prev Med	6. 最初と最後の頁 106945
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jpmed.2021.106945	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Ukawa S, Tamakoshi A, Tani Y, Sasaki Y, Saito J, Haseda M, Shirai K, Kondo N, Kondo K, Kawachi I	4. 巻 22(2)
2. 論文標題 Leisure activities and instrumental activities of daily living: A 3-year cohort study from the Japan Gerontological Evaluation Study	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Geriatr Gerontol Int	6. 最初と最後の頁 152-159
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ggi.14334	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Wang X, Dong JY, Cui R, Muraki I, Shirai K, Yamagishi K, Kokubo Y, Saito I, Yatsuya H, Sawada N, Iso H, Tsugane S; Japan Public Health Center-based Prospective Study Group	4. 巻 108(5)
2. 論文標題 Smoking cessation, weight gain and risk of cardiovascular disease	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Heart	6. 最初と最後の頁 375-381
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1136/heartjnl-2021-318972	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Tang J, Dong JY, Eshak ES, Cui R, Shirai K, Liu K, Sakaniwa R, Tamakoshi A, Iso H, On Behalf Of The Jacc Study Group	4. 巻 13(10)
2. 論文標題 Supper Timing and Cardiovascular Mortality: The Japan Collaborative Cohort Study	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Nutrients	6. 最初と最後の頁 3389
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/nu13103389	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Wang X, Dong JY, Shirai K, Yamagishi K, Kokubo Y, Saito I, Yatsuya H, Iso H, Tsugane S, Sawada N; Japan Public Health Center-based Prospective Study Group	4. 巻 335
2. 論文標題 Having hobbies and the risk of cardiovascular disease incidence: A Japan public health center-based study	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Atherosclerosis	6. 最初と最後の頁 1-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.atherosclerosis.2021.09.002	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Ogawa K, Shirai K, Nozaki S, Shikimoto R, Sawada N, Mimura M, Iso H, Tsugane S; Japan Public Health Center-based Prospective Study Group	4. 巻 12(1)
2. 論文標題 The association between midlife living arrangement and psychiatrist-diagnosed depression in later life: who among your family members reduces the risk of depression?	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Transl Psychiatry	6. 最初と最後の頁 156
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41398-022-01880-7	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Teramoto M, Yamagishi K, Cui R, Shirai K, Takakoshi A, Iso H	4. 巻 -
2. 論文標題 Body Mass Index and Mortality from Nonrheumatic Aortic Valve Disease among Japanese Men and Women	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 J Atheroscler Thromb	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5551/jat.63452	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Hu K, Li W, Zhang Y, Chen H, Bai C, Yang Z, Lorenz T, Liu K, Kokoro S, Song J, Zhao Q, Zhao Y, Zhang JJ, Wei J, Pan J, Qi J, Ye T, Zeng Y, Yao Y	4. 巻 -
2. 論文標題 Association between outdoor artificial light at night and sleep duration among older adults in China: A cross-sectional study	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Environ Res	6. 最初と最後の頁 113343
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Tang C, Eshak ES, Shirai K, Tamakoshi A, Iso H	4. 巻 -
2. 論文標題 Associations of Dietary Intakes of Vitamins B1 and B3 with Risk of Mortality from Cardiovascular Disease among Japanese Men and Women: the Japan Collaborative Cohort Study	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Br J Nutr	6. 最初と最後の頁 1-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1017/S0007114522001209	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Funakubo N, Eguchi E, Hayashi R, Hirosaki M, Shirai K, Okazaki K, Nakano H, Hayashi F, Omata J, Imano H, Iso H, Ohira T	4. 巻 22(1)
2. 論文標題 Effects of a laughter program on body weight and mental health among Japanese people with metabolic syndrome risk factors: a randomized controlled trial	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 BMC Geriatr	6. 最初と最後の頁 361
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12877-022-03038-y	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Wang Y, Tang C, Fan X, Shirai K, Dong JY	4. 巻 -
2. 論文標題 Mind-body therapies for older adults with dementia: a systematic review and meta-analysis	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Eur Geriatr Med	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s41999-022-00639-z	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Aniya F, Sakima A, Takakura M, Shirai K, Shimabukuro M, Todoriki H, Okumura K, Takemura K, Kinjyo N, Ohya Y	4. 巻 4(3)
2. 論文標題 Effect of Nutrition Education on the Vegetable Intake of Residents in Okinawa	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Circ Rep	6. 最初と最後の頁 131-144
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1253/circrep.CR-21-0152	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Arafa A, Eshak ES, Shirai K, Muraki I, Tamakoshi A, Iso H; JACC Study Group	4. 巻 -
2. 論文標題 Dairy intake and the risk of esophageal cancer: the JACC Study	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 J Epidemiol	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2188/jea.JE20220037	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Yan F, Eshak ES, Shirai K, Dong JY, Muraki I, Tamakoshi A, Iso H	4. 巻 8
2. 論文標題 Soy Intake and Risk of Type 2 Diabetes Among Japanese Men and Women: JACC Study	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Front Nutr	6. 最初と最後の頁 813742
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fnut.2021.813742	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Meishuo O, Eshak ES, Muraki I, Cui R, Shirai K, Iso H, Tamakoshi A	4. 巻 -
2. 論文標題 Association between Dietary Manganese Intake and Mortality from Cardiovascular Disease in Japanese Population: The Japan Collaborative Cohort Study	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 J Atheroscler Thromb	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5551/jat.63195	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Arafa A, Eshak ES, Dong JY, Shirai K, Muraki I, Iso H, Tamakoshi A; JACC Study Group	4. 巻 -
2. 論文標題 Dairy intake and the risk of pancreatic cancer: the Japan Collaborative Cohort Study (JACC Study) and meta-analysis of prospective cohort studies	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Br J Nutr	6. 最初と最後の頁 1-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1017/S0007114521004232	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Gao Q, Eshak ES, Muraki I, Shirai K, Yamagishi K, Tamakoshi A, Iso H	4. 巻 31(11)
2. 論文標題 The apparent inverse association between dietary carotene intake and risk of cardiovascular mortality disappeared after adjustment for other cardioprotective dietary intakes: The Japan collaborative cohort study	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Nutr Metab Cardiovasc	6. 最初と最後の頁 3064-3075
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.numecd.2021.07.026	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Arafa A, Lee HH, Eshak ES, Shirai K, Liu K, Li J, Anni NS, Shim SY, Kim HC, Iso H	4. 巻 51(8)
2. 論文標題 Modifiable Risk Factors for Cardiovascular Disease in Korea and Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Korean Circ J	6. 最初と最後の頁 643-655
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4070/kcj.2021.0121	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Wang X, Yu C, Lv J, Li L, Hu Y, Liu K, Shirai K, Iso H, Dong JY	4. 巻 60(8)
2. 論文標題 Consumption of soy products and cardiovascular mortality in people with and without cardiovascular disease: a prospective cohort study of 0.5 million individuals	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Eur J Nutr	6. 最初と最後の頁 4429-4438
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s00394-021-02602-3	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 A Arafa, E S Eshak, K Shirai, D Cadar, H Iso, T Tsuji, S Kanamori, K Kondo	4. 巻 196
2. 論文標題 Impact of various intensities and frequencies of non-occupational physical activity on the risk of dementia among physically independent older adults: the Japan Gerontological Evaluation Study	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Public Health	6. 最初と最後の頁 204-210
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.puhe.2021.05.022	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Toyama N, Vongphoumy I, Uehara M, Sato C, Nishimoto F, Moji K, Pongvongsa T, Shirai K, Takayama T, Takahara M, Tamashiro Y, Endo Y, Kounnavong S, Kobayashi J	4. 巻 49(1)
2. 論文標題 Impact of village health volunteer support on postnatal depressive symptoms in the remote rural areas of Lao People's Democratic Republic: a cross-sectional study	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Trop Med Health	6. 最初と最後の頁 28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s41182-021-00316-0	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Gero K, Aida J, Shirai K, Kondo K, Kawachi I	4. 巻 273
2. 論文標題 Dispositional Optimism and Disaster Resilience: A natural experiment from the 2011 Great East Japan Earthquake and Tsunami	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Soc Sci Med	6. 最初と最後の頁 113777
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.socscimed.2021.113777	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Nagai M, Ohira T, Shirai K, Kondo K	4. 巻 11(1)
2. 論文標題 Does variety of social interactions associate with frequency of laughter among older people? The JAGES cross-sectional study	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 BMJ Open	6. 最初と最後の頁 e039363
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1136/bmjopen-2020-039363	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Hirosaki M, Ohira T, Shirai K, Kondo N, Aida J, Yamamoto T, Takeuchi K, Kondo K	4. 巻 30(6)
2. 論文標題 Association between frequency of laughter and oral health among community-dwelling older adults: a population-based cross-sectional study in Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Qual Life Res	6. 最初と最後の頁 1561-1569
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s11136-020-02752-7	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Arafa Ahmed, Eshak Ehab, Shirai Kokoro, Iso Hiroyasu, Kondo Katsunori	4. 巻 0
2. 論文標題 Engaging in musical activities and the risk of dementia in older adults: A longitudinal study from the Japan gerontological evaluation study	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Geriatrics & Gerontology International	6. 最初と最後の頁 ahead of print
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ggi.14152	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Toyama Noriko, Vongphoumy Inthanomchanh, Uehara Manami, Sato Chika, Nishimoto Futoshi, Moji Kazuhiko, Pongvongsa Tiengkham, Shirai Kokoro, Takayama Tomomi, Takahara Misuzu, Tamashiro Yoko, Endo Yumiko, Kounnavong Sengchanh, Kobayashi Jun	4. 巻 49(1)
2. 論文標題 Impact of village health volunteer support on postnatal depressive symptoms in the remote rural areas of Lao People's Democratic Republic: a cross-sectional study	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Tropical Medicine and Health	6. 最初と最後の頁 28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s41182-021-00316-0	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Gero Krisztina, Aida Jun, Shirai Kokoro, Kondo Katsunori, Kawachi Ichiro	4. 巻 273
2. 論文標題 Dispositional Optimism and Disaster Resilience: A natural experiment from the 2011 Great East Japan Earthquake and Tsunami	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Social Science & Medicine	6. 最初と最後の頁 113777
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.socscimed.2021.113777	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Nagai Masato, Ohira Tetsuya, Shirai Kokoro, Kondo Katsunori	4. 巻 11
2. 論文標題 Does variety of social interactions associate with frequency of laughter among older people? The JAGES cross-sectional study	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 BMJ Open	6. 最初と最後の頁 e039363
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1136/bmjopen-2020-039363	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hirosaki Mayumi, Ohira Tetsuya, Shirai Kokoro, Kondo Naoki, Aida Jun, Yamamoto Tatsuo, Takeuchi Kenji, Kondo Katsunori	4. 巻 11
2. 論文標題 Association between frequency of laughter and oral health among community-dwelling older adults: a population-based cross-sectional study in Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Quality of Life Research	6. 最初と最後の頁 ahead of print
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s11136-020-02752-7	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Li Yuting, Eshak Ehab, Cui Renzhe, Shirai Kokoro, Liu Keyang, Iso Hiroyasu, Ikehara Satoyo, Tamakoshi Akiko, Ukawa Shigekazu, JACC Study Group	4. 巻 53
2. 論文標題 Television Viewing Time and the Risk of Colorectal Cancer Mortality among Japanese Population: The JACC Study	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Cancer Research and Treatment	6. 最初と最後の頁 497 ~ 505
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4143/crt.2020.327	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Miyata Hiromi, Shirai Kokoro, Muraki Isao, Iso Hiroyasu, Tamakoshi Akiko	4. 巻 0
2. 論文標題 Associations of Body Mass Index, Weight Change, Physical Activity, and Sedentary Behavior With Endometrial Cancer Risk Among Japanese Women: The Japan Collaborative Cohort Study	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Epidemiology	6. 最初と最後の頁 ahead of print
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2188/jea.JE20200145	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sari Gita Nirmala, Eshak Ehab Salah, Shirai Kokoro, Fujino Yoshihisa, Tamakoshi Akiko, Iso Hiroyasu	4. 巻 20(1)
2. 論文標題 Association of job category and occupational activity with breast cancer incidence in Japanese female workers: the JACC study	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 BMC Public Health	6. 最初と最後の頁 1106
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12889-020-09134-1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Arafa Ahmed, Eshak Ehab S, Iso Hiroyasu, Shirai Kokoro, Muraki Isao, Sawada Norie, Tsugane Shoichiro, for the JPHC Study Group	4. 巻 27(11)
2. 論文標題 Urinary Stones and Risk of Coronary Heart Disease and Stroke: the Japan Public Health Center-Based Prospective Study	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Atherosclerosis and Thrombosis	6. 最初と最後の頁 1208 ~ 1215
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5551/jat.54775	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Tamada Yudai, Takeuchi Kenji, Yamaguchi Chikae, Saito Masashige, Ohira Tetsuya, Shirai Kokoro, Kondo Katsunori	4. 巻 0
2. 論文標題 Does Laughter Predict Onset of Functional Disability and Mortality Among Older Japanese Adults? The JAGES Prospective Cohort Study	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Epidemiology	6. 最初と最後の頁 ahead of print
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2188/jea.JE20200051	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Eshak Ehab, Okada Chika, Baba Sachiko, Kimura Takashi, Ikehara Satoyo, Sato Takuyo, Shirai Kokoro, Iso Hiroyasu, for the Japan Environment and Children's Study Group	4. 巻 1248(6)
2. 論文標題 Maternal total energy, macronutrient and vitamin intakes during pregnancy associated with the offspring's birth size in the Japan Environment and Children's Study	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 British Journal of Nutrition	6. 最初と最後の頁 558 ~ 566
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1017/S0007114520001397	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Sakaniwa Ryoto, Tromp Jasper, Shirai Kokoro, Yamagishi Kazumasa, Tamakoshi Akiko, Iso Hiroyasu	4. 巻 109(7)
2. 論文標題 The association of conventionally medicated systolic and diastolic blood pressure level and mortality from cardiovascular disease: is the lower the better in high stroke population?	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Clinical Research in Cardiology	6. 最初と最後の頁 944 ~ 948
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s00392-019-01587-8	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Li Yuting, Eshak Ehab, Shirai Kokoro, Liu Keyang, Dong JY, Iso Hiroyasu, Tamakoshi Akiko, the JACC Study Group	4. 巻 31(1)
2. 論文標題 Alcohol Consumption and Risk of Gastric Cancer: The Japan Collaborative Cohort Study	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Epidemiology	6. 最初と最後の頁 30 ~ 36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2188/jea.JE20190304	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Wang Mengying, Muraki Isao, Liu Keyang, Shirai Kokoro, Tamakoshi Akiko, Hu Yonghua, Iso Hiroyasu	4. 巻 30(10)
2. 論文標題 Diabetes and Mortality From Respiratory Diseases: The Japan Collaborative Cohort Study	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Epidemiology	6. 最初と最後の頁 457 ~ 463
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2188/jea.JE20190091	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Tanigawa Kanami, Ikehara Satoyo, Kimura Takashi, Imano Hironori, Muraki Isao, Shirai Kokoro, Tamakoshi Akiko, Iso Hiroyasu, JACC study group	4. 巻 30(11)
2. 論文標題 Relationships Between Reproductive History and Mortality From Cardiovascular Diseases Among Japanese Women: The Japan Collaborative Cohort Study for Evaluation of Cancer Risk (JACC) Study	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Epidemiology	6. 最初と最後の頁 509 ~ 515
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2188/jea.JE20190020	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Baba Sachiko, Eshak Ehab, Shirai Kokoro, Fujiwara Takeo, Yamaoka Yui, Iso Hiroyasu	4. 巻 30(10)
2. 論文標題 Factors Associated With Family Member 's Spanking of 3.5-year-old Children in Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Epidemiology	6. 最初と最後の頁 464 ~ 473
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2188/jea.JE20190160	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Sheerah Haytham, Keyang Liu, Eshak Ehab Salah, Cui Renzhe, Shirai Kokoro, Muraki Isao, Iso Hiroyasu, Tamakoshi Akiko	4. 巻 10(10)
2. 論文標題 Association of tea consumption and the risk of gastric cancer in Japanese adults: the Japan Collaborative Cohort Study	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 BMJ Open	6. 最初と最後の頁 e038243
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1136/bmjopen-2020-038243	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Saito Tami, Oksanen Tuula, Shirai Kokoro, Fujiwara Takeo, Pentti Jaana, Vahtera Jussi	4. 巻 -
2. 論文標題 Combined Effect of Marriage and Education on Mortality: A Cross-national Study of Older Japanese and Finnish Men and Women	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Epidemiology	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2188/jea.JE20190061	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Amemiya Airi, Fujiwara Takeo, Shirai Kokoro, Kondo Katsunori, Oksanen Tuula, Pentti Jaana, Vahtera Jussi	4. 巻 9
2. 論文標題 Association between adverse childhood experiences and adult diseases in older adults: a comparative cross-sectional study in Japan and Finland	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 BMJ Open	6. 最初と最後の頁 e024609
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1136/bmjopen-2018-024609	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Sakaniwa Ryoto, Tromp Jasper, Shirai Kokoro, Yamagishi Kazumasa, Tamakoshi Akiko, Iso Hiroyasu	4. 巻 -
2. 論文標題 The association of conventionally medicated systolic and diastolic blood pressure level and mortality from cardiovascular disease: is the lower the better in high stroke population?	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Clinical Research in Cardiology	6. 最初と最後の頁 --
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s00392-019-01587-8	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Eshak Ehab S, Okada Chika, Baba Sachiko, Kimura Takashi, Ikehara Satoyo, Sato Takuyo, Shirai Kokoro, Iso Hiroyasu, for the Japan Environment and Children's Study group	4. 巻 -
2. 論文標題 Maternal total energy, macronutrient and vitamin intakes during pregnancy associated with the offspring's birth size in the Japan Environment and Children's Study	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 British Journal of Nutrition	6. 最初と最後の頁 1~26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1017/S0007114520001397	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Li Yuting, Eshak Ehab S., Shirai Kokoro, Liu Keyang, Dong JY, Iso Hiroyasu, Tamakoshi Akiko, the JACC Study Group	4. 巻 -
2. 論文標題 Alcohol Consumption and Risk of Gastric Cancer: The Japan Collaborative Cohort Study	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Epidemiology	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2188/jea.JE20190304	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Saito Tami, Cable Noriko, Aida Jun, Shirai Kokoro, Saito Masashige, Kondo Katsunori	4. 巻 19
2. 論文標題 Validation study on a Japanese version of the three item UCLA Loneliness Scale among community dwelling older adults	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Geriatrics & Gerontology International	6. 最初と最後の頁 1068~1069
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ggi.13758	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Yamada Keiko, Kubota Yasuhiko, Tabuchi Takahiro, Shirai Kokoro, Iso Hiroyasu, Kondo Naoki, Kondo Katsunori	4. 巻 9
2. 論文標題 A prospective study of knee pain, low back pain, and risk of dementia: the JAGES project	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-019-47005-x	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Fujiwara Takeo, Weisman Omri, Ochi Manami, Shirai Kokoro, Matsumoto Kenji, Noguchi Emiko, Feldman Ruth	4. 巻 102
2. 論文標題 Genetic and peripheral markers of the oxytocin system and parental care jointly support the cross-generational transmission of bonding across three generations	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Psychoneuroendocrinology	6. 最初と最後の頁 172 ~ 181
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.psyneuen.2018.12.004	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Baba Sachiko, S. Eshak Ehab, Shirai Kokoro, Fujiwara Takeo, Yamaoka Yui, Iso Hiroyasu	4. 巻 -
2. 論文標題 Factors Associated With Family Member 's Spanking of 3.5-year-old Children in Japan	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Epidemiology	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2188/jea.JE20190160	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Wang Mengying, Muraki Isao, Liu Keyang, Shirai Kokoro, Tamakoshi Akiko, Hu Yonghua, Iso Hiroyasu	4. 巻 -
2. 論文標題 Diabetes and Mortality From Respiratory Diseases: The Japan Collaborative Cohort Study	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Epidemiology	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2188/jea.JE20190091	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Tanigawa Kanami, Ikehara Satoyo, Kimura Takashi, Imano Hironori, Muraki Isao, Shirai Kokoro, Tamakoshi Akiko, Iso Hiroyasu	4. 巻 -
2. 論文標題 Relationships Between Reproductive History and Mortality From Cardiovascular Diseases Among Japanese Women: The Japan Collaborative Cohort Study for Evaluation of Cancer Risk (JACC) Study	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Epidemiology	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2188/jea.JE20190020	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sato Koryu, Viswanath Kasisomayajula, Hayashi Hana, Ishikawa Yoshiki, Kondo Katsunori, Shirai Kokoro, Kondo Naoki, Nakagawa Keisuke, Kawachi Ichiro	4. 巻 221
2. 論文標題 Association between exposure to health information and mortality: Reduced mortality among women exposed to information via TV programs	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Social Science & Medicine	6. 最初と最後の頁 124 ~ 131
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.socscimed.2018.12.019	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Sato K, Viswanath K, Hayashi H, Ishikawa Y, Kondo K, Shirai K, Kondo N, Nakagawa K, Kawachi I	4. 巻 221
2. 論文標題 Association between exposure to health information and mortality: Reduced mortality among women exposed to information via TV programs.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Soc Sci Med	6. 最初と最後の頁 124-131
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.socscimed.2018.12.019	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Fujiwara T, Weisman O, Ochi M, Shirai K, Matsumoto K, Noguchi E, Feldman R.	4. 巻 102
2. 論文標題 Genetic and peripheral markers of the oxytocin system and parental care jointly support the cross-generational transmission of bonding across three generations.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Psychoneuroendocrinology.	6. 最初と最後の頁 172-181
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.psyneuen.2018.12.004	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Tsuji T, Amemiya A, Shirai K, Stenholm S, Pentti J, Oksanen T, Vahtera J, Kondo K.	4. 巻 18(1)
2. 論文標題 Association between education and television viewing among older working and retired people: a comparative study of Finland and Japan.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 BMC Public Health	6. 最初と最後の頁 917
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12889-018-5860-4.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Imai Y, Nagai M, Ohira T, Shirai K, Kondo N, Kondo K.	4. 巻 8(7)
2. 論文標題 Impact of social relationships on income-laughter relationships among older people.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 BMJ Open.	6. 最初と最後の頁 e019104
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1136/bmjopen-2017-019104.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sato Y, Aida J, Tsuboya T, Shirai K, Koyama S, Matsuyama Y, Kondo K, Osaka K.	4. 巻 43-53
2. 論文標題 Generalized and particularized trust for health between urban and rural residents in Japan: A cohort study from the JAGES project.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Soc Sci Med.	6. 最初と最後の頁 202
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.socscimed.2018.02.015.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 1.Sato Y, Aida J, Tsuboya T, Shirai K, Koyama S, Matsuyama Y, Kondo K, Osaka K.	4. 巻 202
2. 論文標題 Generalized and particularized trust for health between urban and rural residents in Japan: A cohort study from the JAGES project.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Social Science and Medicine	6. 最初と最後の頁 43-53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.socscimed.2018.02.015	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Shirai K, Iso H	4. 巻 264(4)
2. 論文標題 Life course approach and non-communicable disease in Japan:Japanese Cohort Studies based on life stages	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of clinical and experimental medicine	6. 最初と最後の頁 283-287
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nemoto Y, Saito T, Kanamori S, Tsuji T, Shirai K, Kikuchi H, Maruo K, Arao T, Kondo K	4. 巻 29;17(1)
2. 論文標題 An additive effect of leading role in the organization between social participation and dementia onset among Japanese older adults: the AGES cohort study	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 BMC Geriatrics	6. 最初と最後の頁 297
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12877-017-0688-9.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Gero K, Kondo K, Kondo N, Shirai K, Kawachi I	4. 巻 189
2. 論文標題 Associations of relative deprivation and income rank with depressive symptoms among older adults in Japan	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Social Science and Medicine	6. 最初と最後の頁 138-144
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.socscimed.2017.07.028	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Toyama N, Kurihara K, Muranaka M, Shirai K, Kamibeppu K.	4. 巻 9(7)
2. 論文標題 Designing a Scale to Assess Family Nursing Practice among Public Health Nurses in Japan.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Health	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4236/health.2017.97074	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Fujiwara T, Takamoto I, Amemiya A, Hanazato M, Suzuki N, Nagamine Y, Sasaki Y, Tani Y, Yazawa A, Inoue Y, Shirai K, Shobugawa Y, Kondo N, Kondo K.	4. 巻 182
2. 論文標題 Is a hilly neighborhood environment associated with diabetes mellitus among older people? Results from the JAGES 2010 study.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Social Science and Medicine	6. 最初と最後の頁 45-51.
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.socscimed.2017.04.008.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yokobayashi K, Kawachi I, Kondo K, Kondo N, Nagamine Y, Tani Y, Shirai K, Tazuma S	4. 巻 12(1)
2. 論文標題 Association between Social Relationship and Glycemic Control among Older Japanese: JAGES Cross-Sectional Study.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 PLoS One	6. 最初と最後の頁 e0169904
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0169904	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Toyama N, Kurihara K, Muranaka M, Shirai K, Kamibeppu K.	4. 巻 9(6)
2. 論文標題 Designing a Scale to Assess Breastfeeding Support among Public Health Nurses in Japan.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Health	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4236/health.2017.96069	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計51件(うち招待講演 6件/うち国際学会 9件)

1. 発表者名 田中麻理, 今野弘規, 羽山実奈, 村木功, 白井こころ, 山岸良匡, 岡田武夫, 木山昌彦, 北村明彦, 高山佳洋, 磯博康
2. 発表標題 中年期・前期高齢者のリスク因子と将来の要介護認知症発症との関連
3. 学会等名 第80回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 白井こころ
2. 発表標題 Well-being・幸福と健康: 疫学・予防医学研究への示唆
3. 学会等名 第32回 日本疫学会学術総会(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 安仁屋文香・崎間敦・高倉 実・白井こころ・島袋真澄・等々力英美・奥村耕一郎・武村克哉・金城昇・大屋祐輔
2. 発表標題 地域健康づくりにおける野菜摂取量増加の取り組み
3. 学会等名 第43回日本高血圧学会総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 崎間敦・高倉実・安仁屋文香・白井こころ・島袋真澄・等々力英美・奥村耕一郎・武村克哉・金城昇・大屋祐輔
2. 発表標題 家庭の味付けと小学生の肥満
3. 学会等名 第43回日本高血圧学会総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 井手一茂・中込敦士・辻大士・山本貴文・渡邊良太・芝孝一郎・横山芽衣子・白井こころ・近藤克則
2. 発表標題 高齢者における通いの場参加と健康・well-being 34指標の変化：JAGES 2013-2016-2019アウトカムワイド分析
3. 学会等名 第32回日本疫学会学術総会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 乾智貴・橘田真理・中村友哉・坂庭嶺人・白井こころ・今野弘規・石原真穂・Ehab Eshak・董加毅・玉腰暁子・磯博康
2. 発表標題 高血圧有病者における夕食時間と循環器疾患死亡との関連：JACC study
3. 学会等名 第32回日本疫学会学術総会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 増田奈保子・石田菜津美・KIM HWANGBEUM・坂庭嶺人・白井こころ・今野弘規・石原真穂・Ehab Eshak・董加毅・玉腰暁子・磯博康
2. 発表標題 小児期の居住地域特性と将来の循環器疾患死亡との関連：JACC Study
3. 学会等名 第32回日本疫学会学術総会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 玉田雄大・竹内研時・斉藤雅茂・山口知香枝・白井こころ・大平哲也・小嶋雅代・若井建志・近藤克則
2. 発表標題 高齢者の日常生活における笑いとフレイル発生リスクとの関連：JAGES縦断研究
3. 学会等名 第32回日本疫学会学術総会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 見目能基・江口依里・吉田知克・鶴田浩惇・白井こころ・玉腰暁子・磯博康・大平哲也
2. 発表標題 生きがいおよび生活習慣の組み合わせと循環器疾患死亡との関連：JACCスタディ
3. 学会等名 第32回日本疫学会学術総会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 鶴田浩惇・江口依里・吉田知克・見目能基・白井こころ・玉腰暁子・磯博康・大平哲也
2. 発表標題 人に頼られている感覚および生活習慣の組み合わせと循環器疾患死亡との関連：JACCスタディ
3. 学会等名 第32回日本疫学会学術総会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 張競文・白井こころ・今野弘規・田中麻理・李嘉琦・川内はるな・王雨・岡本華奈・近藤克則・北村明彦・磯博康
2. 発表標題 Association between ikigai and hypertension in Japanese population: a cross-sectional study
3. 学会等名 第32回日本疫学会学術総会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 川内はるな・寺本将行・白井こころ・玉腰暁子・磯博康
2. 発表標題 小児期の受動喫煙と成人期の呼吸器疾患死亡との関連について：JACC 研究
3. 学会等名 第80回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 白井こころ
2. 発表標題 社会医学における健康格差研究の潮流を考える
3. 学会等名 第61回日本社会医学会総会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 白井こころ・磯博康・松山祐輔・近藤克則
2. 発表標題 Weighted population attributable fractions for risk factors for dementia in Japan: JAGES study
3. 学会等名 第31回日本疫学会総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Ahmed Arafa, Ehab Eshak, Kokoro Shirai, Hiroyasu Iso, Katsunori Kondo
2. 発表標題 Engaging in musical activities and the risk of dementia in older adults: the JAGES
3. 学会等名 第31回日本疫学会総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Paramita Khairan, Kokoro Shirai, Yugo Shobugawa, Katsunori Kondo, Tomotaka Sobue, Hiroyasu Iso
2. 発表標題 Pneumonia infection and risk of dementia: Japan Gerontological Evaluation Study (JAGES) - Three years cohort study
3. 学会等名 第31回日本疫学会総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 力石 尚也・白井こころ・久保田 康彦・村木 功・今野 弘規・玉腰 暁子・磯 博康
2. 発表標題 健診への関心および学歴と死亡リスクとの関係
3. 学会等名 第31回日本疫学会総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 白井こころ、近藤尚己、伊藤ゆり、相田潤
2. 発表標題 社会医学における健康格差研究の潮流を考える。
3. 学会等名 第61回日本社会医学会総会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 白井 ころこ、磯 博康、松山 祐輔、近藤 克則
2. 発表標題 Weighted population attributable fractions for risk factors for dementia in Japan: JAGES study.
3. 学会等名 第31回日本疫学会総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Ahmed Arafa, Ehab Eshak, Kokoro Shirai, Hiroyasu Iso, Katsunori Kondo.
2. 発表標題 Engaging in musical activities and the risk of dementia in older adults: the JAGES.
3. 学会等名 第31回日本疫学会総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Paramita Khairan, Kokoro Shirai, Yugo Shobugawa, Katsunori Kondo, Tomotaka Sobue, Hiroyasu Iso.
2. 発表標題 Pneumonia infection and risk of dementia: Japan Gerontological Evaluation Study (JAGES) - Three years cohort study.
3. 学会等名 第31回日本疫学会総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 力石 尚也、白井 ころこ、久保田 康彦、村木 功、今野 弘規、玉腰 暁子、磯 博康.
2. 発表標題 健診への関心および学歴と死亡リスクとの関係.
3. 学会等名 第31回日本疫学会総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Reich M, Shirai K, Nakamura Y, Iso H.
2. 発表標題 Governance in the era of COVID-19 pandemic.
3. 学会等名 Joint congress on global health 2020 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Hosoda M, Shirai K, Tanuma J, Sakisaka K, Okawa S, Kunieda M, Reich R, Yokokura Y, Nakamura Y.
2. 発表標題 Challenges and potential of female global health leaders from Japan.
3. 学会等名 Joint congress on global health 2020 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 白井こころ、磯博康、奥園桜子、大平哲也、近藤克則.
2. 発表標題 高齢者の生きがいの有無と認知症発症認定との関連性の検討.
3. 学会等名 第30回日本疫学会総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山口 知香枝、竹内 研時、玉田 雄大、白井 こころ、大平 哲也、斉藤 雅茂、近藤 克則.
2. 発表標題 一人で / 誰かと笑うかで要介護リスクは異なるか : JAGES縦断研究
3. 学会等名 第30回日本疫学会総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 岩崎 歩、寺本 将行、白井 こころ、玉腰 暁子、磯 博康.
2. 発表標題 The association between living area during childhood and adult mortality : the JACC Study.
3. 学会等名 第30回日本疫学会総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Yu Wang、白井 こころ、磯 博康、大平 哲也、山口 知香枝、玉田 雄大、近藤 克則.
2. 発表標題 The associations between patterns of laughter and incidence of dementia among older Japanese adults.
3. 学会等名 第30回日本疫学会総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kokoro Shirai
2. 発表標題 Does happy people have lower risk of dementia?: psychological well-being and incident dementia ELSA and JAGES study
3. 学会等名 The 11th International Society for Sosial Capital Research (ISSC) meeting (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kokoro Shirai, Hiroyasu Iso, Ichiro Kawachi, Ryoto Sakaniwa, Katsunori Kondo
2. 発表標題 Positive Psychological Determinants of Dementia in Japan
3. 学会等名 THE GERONTOLOGICAL SOCIETY OF AMERICA Annual Scientific Meeting 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ryoto Sakaniwa, Kokoro Shirai, Hiroyasu Iso, Katsunori Kondo
2. 発表標題 Changes in socioeconomic status across the life-course and dementia onset in Japan Gerontological Evaluation Study
3. 学会等名 THE GERONTOLOGICAL SOCIETY OF AMERICA Annual Scientific Meeting 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Sakurako S. Okuzono, Harold H. Lee, Kokoro Shirai, Naoki Kondo, Laura D. Kubzansky
2. 発表標題 Optimism, ikigai and lifespan among Japanese older adults
3. 学会等名 American Psychosomatic Society (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Wang Y, 白井こころ, 磯博康, 大平哲也, 山口知香枝, 玉田雄大, 近藤克則
2. 発表標題 The associations between patterns of laughter and incidence of dementia among older Japanese adults
3. 学会等名 第30回日本疫学会学術総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山口知香枝, 竹内研時, 玉田雄大, 白井こころ, 大平哲也, 齊藤雅茂, 近藤克則
2. 発表標題 一人で / 誰かと笑うかで要介護リスクは異なるか : JAGES縦断研究
3. 学会等名 第30回日本疫学会学術総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 白井こころ, 磯博康, 奥園桜子, 大平哲也, 近藤克則
2. 発表標題 高齢者の生きがいの有無と認知症発症の関連の検討
3. 学会等名 第30回日本疫学会学術総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 岩崎歩, 寺本将行, 白井こころ, 玉腰暁子, 磯博康
2. 発表標題 The association between living area during childhood and adult mortality: the JACC study
3. 学会等名 第30回日本疫学会学術総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 白井こころ, 広崎真弓, 中川威
2. 発表標題 ポジティブ感情は健康長寿に寄与するか?
3. 学会等名 日本老年社会科学会第61回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 坂庭 嶺人, 崔 仁哲, Ehab eshak, 白井 こころ, 玉腰 暁子, 磯 博康
2. 発表標題 高血圧患者における多重合併症パターンと冠動脈系疾患死亡に対する至適収縮期血圧値の検討
3. 学会等名 第42回日本高血圧学会総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 崎間 敦、安仁屋 文香、高倉 実、白井 こころ、島袋 真澄、金城 昇、等々力 英美、武村 克哉、奥村 耕一郎、大屋 祐輔
2. 発表標題 沖縄県地域住民における社会経済的要因と食塩摂取量の関係
3. 学会等名 第42回日本高血圧学会総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Gita Nirmala, Eshak Ehab, Shirai Kokoro, Iso Hiroyasu
2. 発表標題 Occupational Activity and Risk of Breast Cancer Incidence: The JACC Study
3. 学会等名 第78回公衆衛生学会総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 長澤真衣子、白井こころ、谷川果菜美、仲宗根正、磯博康
2. 発表標題 母親の妊娠中の飲酒と乳児のワクチン未接種との関連
3. 学会等名 第78回公衆衛生学会総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 谷川果菜美、白井こころ、長澤真衣子、仲宗根正、磯博康
2. 発表標題 3歳児の生活習慣と母親の育てにくさの認識、虐待リスクとの関連
3. 学会等名 第78回公衆衛生学会総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 白井 こころ
2. 発表標題 ポジティブ心理行動介入による心身の健康づくり 地域・個人のポジティブ心理資源とヘルスプロモーション
3. 学会等名 日本公衆衛生学会総会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 白井 こころ, 磯 博康, 谷川 果菜美, 長澤 真衣子, 田中 太郎, 山縣 然太郎, 仲宗根 正
2. 発表標題 周囲のサポート・父親の育児参加と母親の育てにくさの認識・虐待リスクに関する検討
3. 学会等名 日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 崎間 敦, 小浜 敬子, 安仁屋 文香, 鳥袋 真澄, 白井 こころ, 高倉 実, 金城 昇, 等々力 英美, 武村 克哉, 奥村 耕一郎, 大屋 祐輔
2. 発表標題 若年期からの生活習慣の改善と高血圧発症予防 学校給食を活用した減塩教育の実践
3. 学会等名 日本高血圧学会総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 谷川 果菜美, 白井 こころ, 長澤 真衣子, 仲宗根 正, 磯 博康
2. 発表標題 1歳6ヵ月児の生活習慣と母親の育てにくさの認識、虐待リスクに関する検討
3. 学会等名 日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 長澤 真衣子, 白井 こころ, 谷川 果菜美, 仲宗根 正, 磯 博康
2. 発表標題 乳児を持つ親への産後一ヵ月の専門職からの支援と虐待リスクに関する検討
3. 学会等名 日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 白井こころ・大平 哲也・島津 明人・山陰 一・大平 英樹・尾島 俊之
2. 発表標題 地域のポジティブ資源と健康：地域の健康づくりにおける活用と醸成を考える
3. 学会等名 日本公衆衛生学会
4. 発表年 2017年～2018年

1. 発表者名 kokoro Shirai
2. 発表標題 Social Capital and its association with health behavior and mortality among older Japanese men and women
3. 学会等名 International Society for Social Capital (国際学会)
4. 発表年 2017年～2018年

1. 発表者名 Toshiyuki Ojima・Eisaku Okada・Mieko Nakamura・Seungwon Jeong・Yasuhiro Miyaguni・Shirai Kokoro・Hiroshi Hirai・Masashige Saito・Jun Aida・Naoki Kondo・Katsunori Kondo
2. 発表標題 Social support and long-term care need
3. 学会等名 World Congress of Epidemiology (国際学会)
4. 発表年 2017年～2018年

1. 発表者名 Kokoro Shirai・Hiroshi Hirai・Hiroyasu Iso・Tami Saito・Taishi Tsuji・Yuri Sasaki・Katsunori Kondo
2. 発表標題 Subjective and Objective Socioeconomic Status and its association with incidence of dementia among older Japanese men and women: JAGES study
3. 学会等名 World Congress of Epidemiology (国際学会)
4. 発表年 2017年～2018年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 Shirai K, Iso H	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 328
3. 書名 “Dementia” (Chap.11) Kondo K (ed). Social Determinants of Health in Non-communicable diseases case study from Japan	

1. 著者名 Shirai K	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Oxford University Press	5. 総ページ数 335
3. 書名 “Social determinants of health on the island of Okinawa” (Chap. 19) Brunner E, Cable N, and Iso H (eds). Health in Japan: Social Epidemiology of Japan since the 1964 Tokyo Olympics	

1. 著者名 日本疫学会監修	4. 発行年 2018年
2. 出版社 南江堂	5. 総ページ数 216
3. 書名 初めて学ぶやさしい疫学 (改定第3版)	

1. 著者名 リサーパークマン・イチローカワチ・マリアグリモール	4. 発行年 2017年
2. 出版社 大修館	5. 総ページ数 391
3. 書名 社会疫学：Social Epidemiology (上)	

1. 著者名 リサーパークマン・イチローカワチ・マリアグリモール	4. 発行年 2017年
2. 出版社 大修館	5. 総ページ数 425
3. 書名 社会疫学：Social Epidemiology (下)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
主たる渡航先の主たる海外共同研究者	カワチ イチロー (Kawachi Ichiro)	ハーバード大学・School of Public Health・Professor	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
主たる渡航先の主たる海外共同研究者	ステプター アンドリュー	ユニバーシティカレッジロンドン・Faculty of Population Health Science・Professor	
	(Steptoe Andrew)		

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
その他の研究協力者	オクサネン トゥラ	フィンランド産業保健研究所・Professor	
	(Tuula Oksanen)		
その他の研究協力者	グレイザー カレン	キングスカレッジロンドン・Professor	
	(Karen Glazer)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計4件

国際研究集会 Ageing in Asia: medical and public health challenges from the global perspectives	開催年 2020年～2020年
国際研究集会 Biopsychosocial determinants of cognitive ageing and dementia: Perspectives from the UK and Japan: UK Japan ESRC International Symposium	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 International Data Harmonization Workshops for Cognitive Ageing and DementiaUK Japan ESRC Data Harmonisation Workshops	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 Research seminar: Social determinants of dementia in Japan	開催年 2017年～2018年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------

米国	ハーバード大学公衆衛生大学院			
英国	King ' s college London & UCL			
米国	ハーバード大学公衆衛生大学院			
英国	King ' s college London & UCL			
米国	ハーバード大学公衆衛生大学院			
フィンランド	フィンランド産業保健研究所			